

【富岡町】

課題 飼料用米として水稻の品種選定・
栽培法の現地実証

現地 富岡町下郡山字原下

背景（富岡町）

●復旧期(H24-28)～復興期(H29-32)

除染 → 平成25年度より始まる

高線量の地区 → 食用以外の農作物
が想定される

営農再開 → 意欲的な担い手がいる

●実証ほにおける課題

飼料用米の品種比較。多収を実証。

実証ほの設計（飼料用米）

- ほ場 震災後、作付け初年目
- 供試品種
（対照）ひとめぼれ
（比較）ふくひびき、べこあおば
（赤文字は多収品種）
- 放射性セシウムの吸収抑制対策
塩化カリ : 4 kg/a
ケイカリン : 4 kg/a
ゼオライト : 10 kg/a
- 基肥（化成肥料）N - P₂O₅ - K₂O
(kg/a) 0.4 - 0.6 - 0.5
- 機械移植（60株/坪設定）



「べこあおば」の草姿
写真提供：県農総セ稲作科

実証ほの土壌分析（富岡）

調査	pH	CEC (me/100g)	交換性塩基(mg/100g)			可給態P ₂ O ₅ (me/100g)	放射性Cs (Bq/kg)
			CaO	MgO	K ₂ O		
実証ほ	5.5	11.4	114	41	35	11	3200

注) 施肥・耕うん: 5月10日。調査: 5月14日(土壌15cm深)。
放射性CsはCs-134とCs-137の合計値(以下、同じ)。

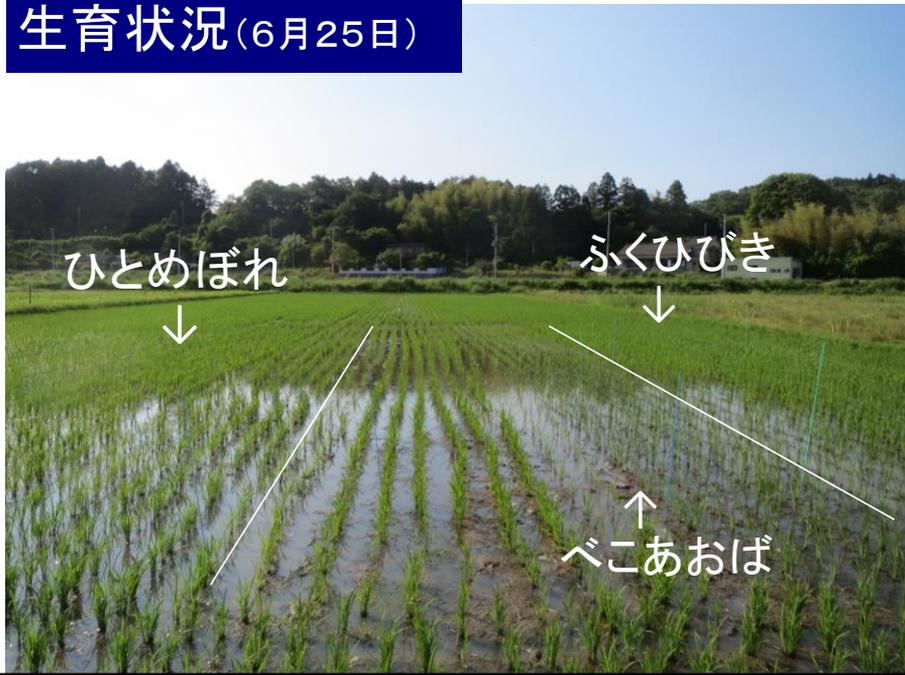
○施肥後の土壌交換性カリ
改善目標(25mg)より多い、
35mg/100g乾土 あった。

○前年の雑草残渣
ほ場外へ搬出した。



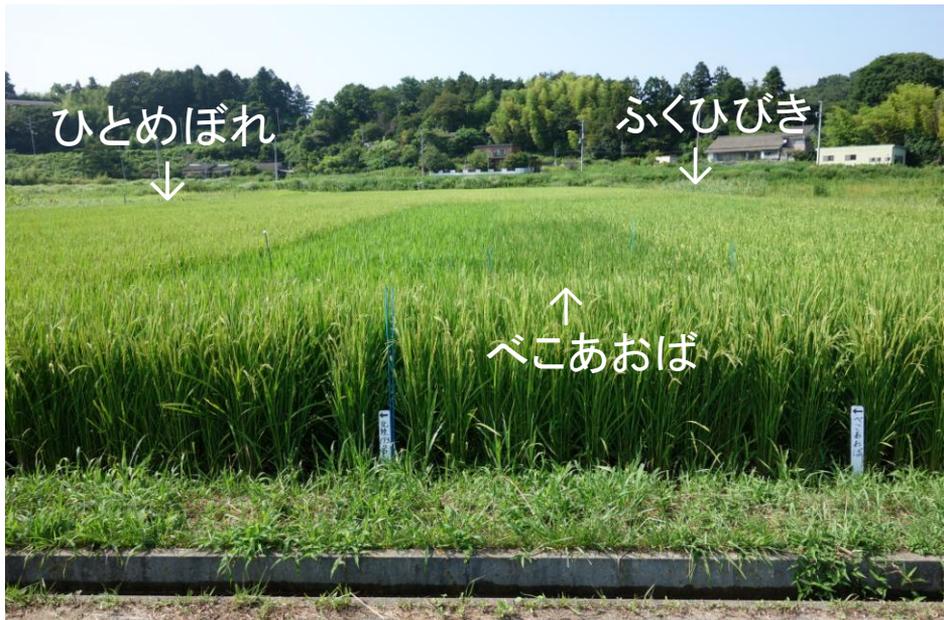
代かき(5月23日)
田植え(5月28日)

生育状況(6月25日)



生育状況(8月22日)

・「べこあおば」「ふくひびき」は
葉色が濃い



生育状況(9月26日)

・台風と秋雨により倒伏した。



生育状況(9月26日)

・「べこあおば」:倒伏なし。
・「ふくひびき」:なびき程度。



野生鳥獣被害



- ・8月下旬より数回侵入
- ・電気牧柵など対策が必要

9月26日撮影

協力

(独)東北農業研究センター

福島研究拠点

村上敏文 氏

「ひばりはみた」



結果

・粗玄米重「べこあおば」: 84.5 kg/a (籾数多い、大粒)

・粗玄米重「ふくひびき」: 78.3 kg/a (籾数多い)

品種	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-4)
ひとめぼれ	8/14	9/30	89	19.1	425	1.7
ふくひびき	8/12	9/26	73	19.6	388	0.7
べこあおば	8/16	10/3	69	20.5	317	0

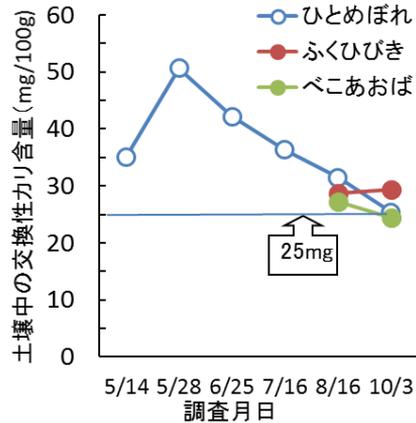
品種	全重 (kg/a)	籾/ わら	粗玄米 重 (kg/a)	1穂 籾数 (粒)	m ² 籾数 (万粒)	登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)	粗玄米 タンパク質 (%)
ひとめぼれ	166.6	1.26	70.8	83	3.5	85.0	21.8	6.1
ふくひびき	170.8	1.43	78.3	106	4.1	75.8	23.3	6.3
べこあおば	177.0	1.82	84.5	127	4.0	61.2	30.5	6.8

結果

・粗玄米の放射性Cs濃度は
14~17 Bq/kg と低い値。

品種	放射性Cs濃度 (Bq/kg)		
	わら	粗玄米	作付け後 土壌
ひとめぼれ	75	17	3600
ふくひびき	49	14	3600
べこあおば	61	17	3800

注) わら: 乾物、粗玄米: 水分15%補正、土壌: 乾土
基準日: 平成25年11月1日



○作付け期間の土壌交換性カリ
→ 25mg/100g乾土以上あった

参考: 5月~8月の用水(6回調査)

溶存態(0.45μ m濾過)放射性Cs濃度
平均0.34 Bq/リットル
→玄米への影響は、数Bq程度と推定

まとめ(飼料用米)



- ・震災から2年経過、作付け初年目の水田
- ・「基肥N:0.4kg/a+追肥なし」の施肥体系
- ・カリ肥料、ゼオライトなど土壌改良剤の施用

●多収と低放射性Cs濃度の飼料用米を実証

べこあおば: 84.5kg/a (放射性Cs 17 Bq/kg)

ふくひびき: 78.3kg/a (放射性Cs 14 Bq/kg)

ひとめぼれ: 70.8kg/a (放射性Cs 17 Bq/kg)

* 作付け後、土壌の放射性Cs 3600~3800 Bq/kg